

ごみゼロのまち

平成12年6月、国は「循環型社会形成推進基本法」を制定し、廃棄物に関する諸法令を整備しました。市でも、平成13年12月、ごみ・リサイクルの条例を改正しました。今後、市の廃棄物の施策は、「リサイクルの推進」に加え、「廃棄物の発生そのものを抑制する」という考え方で進めていくこととなりました。



しかし、法律や社会の仕組みが整っても、わたしたちひとりひとりが、環境に対する意識を変え、毎日の生活の中でごみを減らしていく努力をしない限り、ごみが増え続けてしまいます。環境への負担を軽くし、ごみ処理の経費を減らしていくためには市民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たし、相互に協力してごみ減量を進めていく必要があります。ごみを減らすためにはどうしたらいいのか、そのためにまず、燃えるごみの多くを占める、紙ごみを減らしていく方法から考えてみましょう。

紙ごみを減らすコツ

1 断わることで、家に紙を持ち込まない (発生抑制)

- 過剰な包装のものは、売らない・買わない
- 読まないダイレクトメールは、差出人に戻そう

最近はお祭り物などを簡易包装にしているお店も増えてきましたが、まだまだ「こんなに包装が必要なかな」と思うものもあります。必要以上の包装は、しないように、されないように、断わることから始めましょう。

また、ダイレクトメールは、開封しないで、封筒に「受取拒否」と赤色で書き、ポストに入れば差出人に戻ります。郵送料もかかります。

※マイバック（自分の買い物袋）を持って買い物に行き、レジ袋は断わりましょう。



封封しない
赤色書きで
はっきりと



二ツ塚処分場から運搬処分？



電池や蛍光灯などをきちんと分別しないで出すと、環境に悪い影響を及ぼします。小平・神山・大和衛生組合で廃砕、焼却処理された埋立ごみの中に混入不適合物（乾電池など）が多く含まれている状態が続くと、搬入停止処分という最悪の事態も予想されます。自分が使ったものは、ルールを守り、最後まで責任を持ちましょう。

搬入停止になると、小平市のごみの行き場がなくなり、まちにごみがあふれてしまいます。



だいきび着替したみ。

あと、たのきよ!

OK! まがせと(け)って!

こだいら

2 使い捨ての紙は、買わない・使わない (再使用)

- 古布を小さく切って、ミニぞうきんに
- 古タオルを床ワイパーにつけてお掃除
- 天ぷらの油切りは、新聞紙や漫画雑誌で

使い捨ての物をまったく使わないわけにはいきませんが、なるべく使わないようにすることは、少しの工夫でできるはず。要らなくなった物でも再利用することができないか、考えてみてはどうでしょうか?



要らなくなったTシャツも小さくカット。

古タオルもはこれぞ。

3 紙資源とごみをきちんと分別しよう! (再生利用)

- 雑がみを分別しよう

名刺よりも大きな紙で、包装紙や紙でできている菓子箱などのほか、次の物も雑がみです。



雑がみの出し方

雑がみは、それぞれ大きさが違うので、紙袋に入れるか、雑がみにはさんで出してください。菓子箱などは折りたたんで出してください。

※燃えるごみ ※金具をはさず。 ※金具をはさず。 ※封付された封筒のセロハンを切る。

- 「紙バック」も分別し拠点回収に出そう

ジュースやコーヒー、ウーロン茶などの紙バックで500ml以上の物は「紙バック」として回収しています。



※内側にアルミのある紙(紙バック、スープバックなど)は燃えるごみの日に出してください。

牛乳バック・紙バックの出し方

次のルールを守って出しましょう。トイレットペーパーやボックスティッシュに生まれ変わります。

- 1 中身を空にしてすすぐ
- 2 切り開く
- 3 乾かす



小学生・中学生のみなさんの行動チェック項目

- 電池は、充電式のものを使っている (発生抑制)
- 買った文房具やおもちゃは、大切に使うようにしている (発生抑制)
- ボールペンは、替えしんを使うようにしている (発生抑制)
- 使い終わったノートは、雑がみとして分別して出している (再生利用)
- 文房具は、再生品やエコマークのついた商品を買うようにしている (再生利用)
- 環境問題に関心がある

- 4つ以上あてはまる人 → あなたは環境優等生。ごみ博士を目指しましょう
- 一つもあてはまらない人 → まず、「私のまちのごみと資源の出し方」(パンフレット)から読んでみましょう。あなたの行動が、環境に負担をかけていないか見直してみましょう



市民・事業者の皆さんの行動チェック項目

- 電池や蛍光灯は、資源として分別して出している (再生利用)
- 壊れたものは、できるだけ修理して使うようにしている (発生抑制)
- ダンボールは、なるべく業者に返すようにしている (再使用)
- 要らなくなったものは人に譲り、再利用してもらうよう心がけている (再使用)
- 小さな紙(名刺大以上)も分別して資源として出している (再生利用)
- 再生品やエコマーク商品を選んで買っている。または、店に置くようにしている (再生利用)

- すべてあてはまる人 → あなたは立派な地球市民です。あなたのお店は環境優良店! 今後も続けてください
- 一つもあてはまらない人 → まず、「私のまちのごみと資源の出し方」(パンフレット)を読みましょう。環境に負担のかからないライフスタイルに変えましょう



知って得するリサイクルの知識

再生紙を使いまわそう! -古紙配合率とは?-

再生紙の原料/パルプに占める古紙パルプの割合で、数字が高いほど古紙の配合率が高くなります。市役所が発行している市報や議会報は古紙配合率100%の紙を使用しています。また、コピー用紙も古紙配合率100%です。

学校でも職場でも再生紙を使いまわし、リサイクルの輪をつなげましょう!



ちょうどよい白さ、白色度70 -白色度とは?-

白色度は、パルプおよび紙の白さの程度の指標として用いられます。再生紙を白くするには、上質古紙を利用したり、漂白処理をしたりしますので、薬品使用による環境負荷も大きく、コストも高い紙を作ることになります。市役所で使っているコピー用紙は、白色度70の再生紙です。

牛乳バックは何からできているの?

牛乳バックの原料となる木材は、製材する時に発生する残材やあがくずなど、他の用途に向かないものです。貴重な資源を余すところなく活用して紙バックは生産されています。



牛乳バック30枚でトイレットペーパーなら5巻、ボックスティッシュなら3~4箱に生まれ変わります。

住宅・家具など